

基盤研究(C)

『幼児期から児童期の子供の身体活動量、座位行動と認知・非認知機能に関する縦断研究』(R1-R4)

研究課題番号：19K11590

研究代表者：京都文教短期大学・幼児教育学科・准教授 田中 真紀

(概要)

諸外国では、幼児期から児童期にかけて、子供の身体活動量の大幅な減少と座位行動の増加が見られる事が報告されている。日本でも、学習指導要領に基づいた義務教育の開始前後となり、子供の日常生活は著しく変化するが、幼児期から児童期への移行期間における身体活動量や座位行動の実態およびその変動要因は不明である。なかでも、脳機能が著しく発達するこれらの時期の認知機能に加え、やる気などの非認知機能と客観的に評価した身体活動量や座位行動との関係を解明する事は、身体活動量の促進と座位行動の抑制の意義を検討する上でも重要である。そこで本研究では、以下2点を目的とする。

【目的1】幼児期および児童期の日常生活全般の身体活動量、座位行動および座位の中断の実態や変動要因を探索的に検討すること。

【目的2】幼児期から児童期にかけて、日常生活全般の身体活動量、座位行動および座位の中断と、認知機能および非認知機能との関係を、縦断的に検討すること。

本研究により、子供における身体活動量促進および座位行動抑制の改善に向けた新たな対策の構築が期待される。